

た治療法とはいえなかった。

しかしながら、臨床的には、侵襲が少なく、引き締め効果、リフトアップ効果もあり、一定の患者満足度を得る結果があるため、国内でも治療は継続されてきた。筆者もその一人であるが、臨床的な工夫により、コグなしモノフィラメント糸でも、リフト作用とたるみの予防効果が得られることに気づき、実践してきたので、その手技と工夫について述べる。

モノフィラメントスレッドのテクニック

横滑り波縫い法 (sideslip wave suture)

皮膚を引き上げたい方向（ベクトル方向）に徒手で横滑りさせると、皮膚浅層と深層の可動性の違いから、皮下組織でズレが生じる。その部分にベクトル方向と垂直にモノフィラメントスレッドを波縫いの手技で挿入すると、横滑りした皮膚浅層は、ベクトル方向上方の皮膚深層に縫込まれ固定される。下垂したretaining ligamentなど皮膚

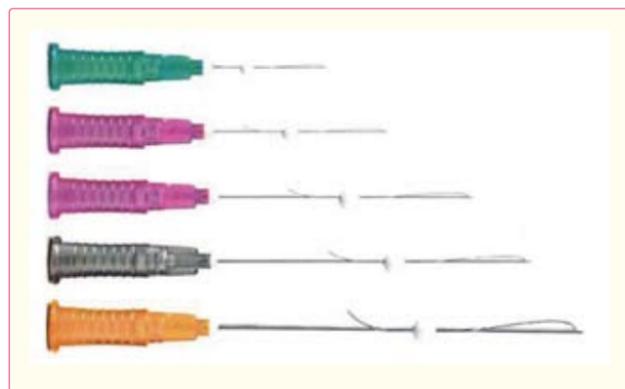


図1 モノフィラメントスレッド(リードファインリフト各種)

に垂直方向の線維組織も、もともとの正しい位置に矯正される。この手技をベクトル方向に連続して行い固定を強化していくと、皮膚はベクトル方向に横滑りしてリフト効果が生まれる(図2)。

格子状面形成法

スレッドを刺入した部位は、線状の微細な損傷であり、加えて糸の異物反応で形成される線維組織による引き締め効果が存在する^{6,8)}。スレッドを皮下で格子状に組んでいくと、線状の糸が面状の性質を持つようになるため、面としての引締め効果を期待できる。鉄筋コンクリートの中の鉄筋が、建物に加わる揺れや衝撃を緩和するように、皮膚に刺入されたスレッドと続発する線維性組織により皮

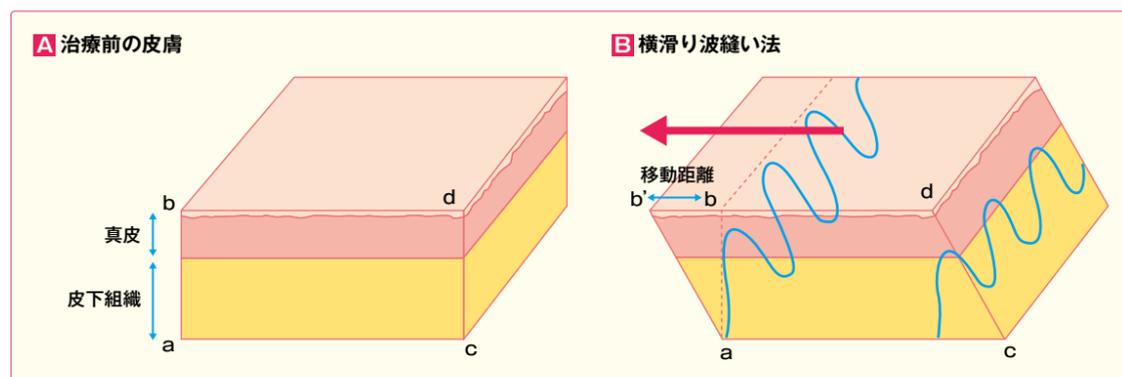


図2 横滑り波縫い法

皮膚をリフトするベクトル方向に引き上げ、皮膚浅層と深層のズレをつくる。ベクトル方向にズレた皮膚浅層を上方の皮膚深層に波縫いし連続で縫い込んでいく。

膚の強度を増す作用が期待できる。格子状に面を形成することで、皮膚の張力（垂直応力）の強度を増し、皮膚に加わる重力や筋肉の動きによる皮膚の揺れの力を吸収・緩和し、たるみの進行を遅らせることが期待される。とくに脂肪の重み加わるmalar fat, jowl fatの部位に積極的に行う(図3)。

リフティング・ベクトル法(図4)

2つのリフトさせたい方向ベクトルにより、皮膚の引き上げ移動を行う。

ベクトルは、深部組織に固定する支持組織にアンカリングするようデザインする。同時に2つのベクトルを交差させて格子状面形成を行う。

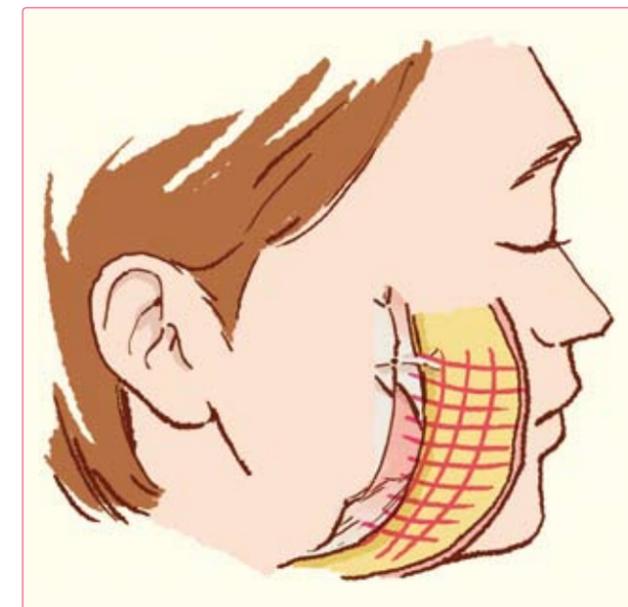


図3 格子状面形成テクニック(文献9を参考に作成)

皮下にスレッドで格子状に面を形成し、面により皮膚張力を補強する。スレッドは鉄筋コンクリートの鉄筋の役割をし、皮膚の構造を強化する。

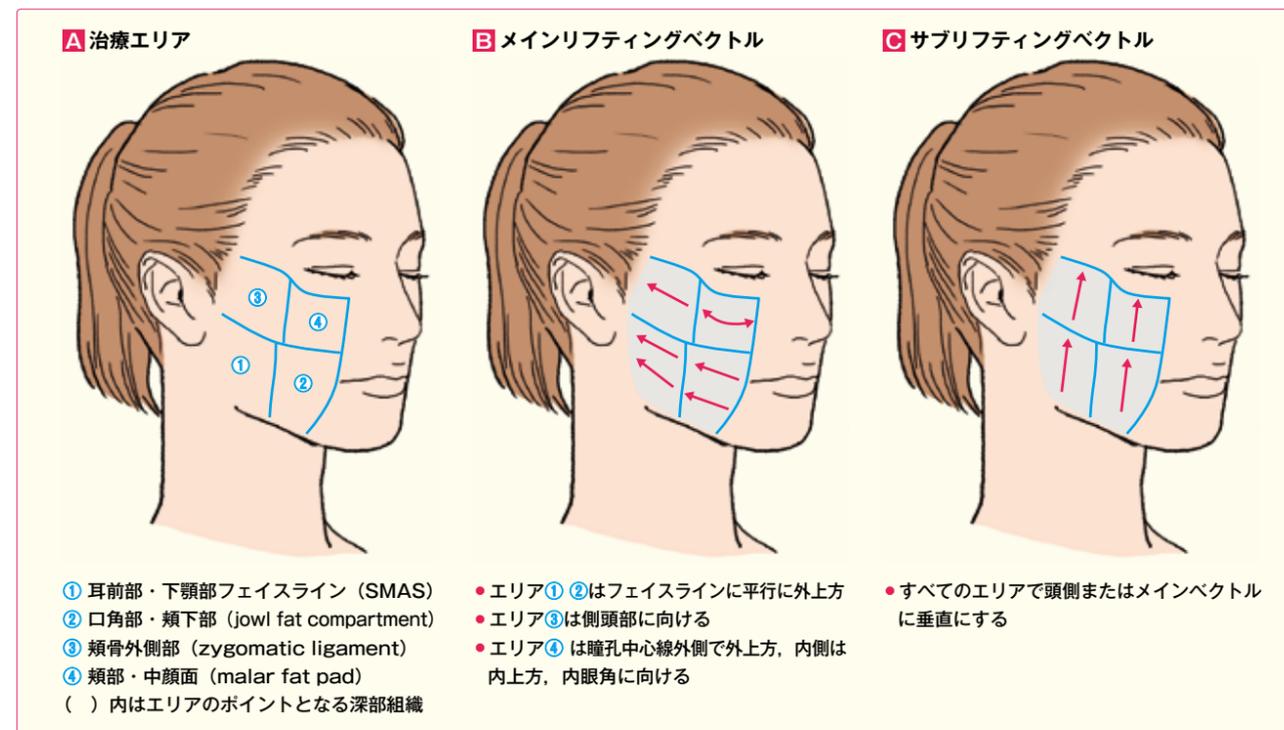


図4 モノフィラメントスレッドの4つの治療エリアと2つのリフティングベクトル

A 治療エリア

B メインリフティングベクトル

C サブリフティングベクトル

- ① 耳前部・下顎部フェイスライン (SMAS)
- ② 口角部・頬下部 (jowl fat compartment)
- ③ 頬骨外側部 (zygomatic ligament)
- ④ 頬部・中顔面 (malar fat pad)
- () 内はエリアのポイントとなる深部組織

- エリア①②はフェイスラインに平行に外上方
- エリア③は側頭部に向ける
- エリア④は瞳孔中心線外側で外上方、内側は内上方、内眼角に向ける

- すべてのエリアで頭側またはメインベクトルに垂直にする